

### 3 発達障害の分類と特徴等

疾患名	症状・特徴等	理解と配慮	主な発見
学習障害 (LD)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的発達に正常であるにもかかわらず、努力しても読むこと、書くこと、計算することなどのある特定の能力を身に着ける事が困難である。</li> <li>・学習をはじめると就学前後の年齢になって初めて気づくことが普通で、多くの場合、幼児期を振り返ってみても特に問題となることがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習障害の状態は保護者も含めて気づきにくいいため、的外れな叱責や無理は努力を強いられることが多い。</li> <li>・子どもの抱える困難を早期に気づき一人一人の個性を尊重する教育が必要である。</li> </ul>	就学前後の年齢
注意欠陥多動性障害 (ADHD)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの行動上の問題から規定された障害。不注意、多動性、衝動性の症状がある。</li> <li>・多動が見られる場合には広汎性発達障害との鑑別が必要である。</li> <li>・乳児期には特徴的な症状が見られることは少ない。</li> <li>・幼児期から典型的な症状（不注意、他動性等）が発現し、保育所や幼稚園に行くようになると多動性が目立ってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱える問題が発達にしたがって変わってくる。小学校低学年までは多動等の基本症状が中心だが、次第に自己評価あるいは自尊感情の低下など二次的な問題が大きくなっていく。</li> <li>・子どもの示す言動を「わがまま」と決めつけず、子どもの視点に立って問題を分析する。</li> <li>・子どもが持っている長所を探し、認めるように対応する。</li> </ul>	3～5歳頃
広汎性発達障害 ASD	自閉症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の状況を理解する力や周囲の人たちに頼む力が乏しく不安に陥りやすい。こだわりの行動や奇声をあげるなどのパニック状態はこうした不安に起因すると考えると理解しやすい。</li> <li>・また、自分の周りの世界を他の人たちと同じように経験することが遅れ、その子どもの独特な感覚で体験する。</li> <li>・くるくるまわるものを眺めたり、特定の物音におびえる。数字などの特異な記憶力などに表れる。</li> <li>・「こだわりや人の気持ちがわかりにくいということを変えられない」という独特の世界を理解し、対応することが大切である。</li> </ul>	知的障害を伴う自閉症・3歳まで
	アスペルガー症候群	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広汎性発達障害とは社会性の障害を中心とする発達障害の総称。自閉症スペクトラムと呼ばれている。</li> <li>・自閉症は、対人的相互反応の活動の限定及び反復的で常同的な行動の3つの特徴を持つ。また、多動がみられることもある。</li> <li>・知的障害を伴わない自閉症をいわゆる高機能自閉症と呼ぶ。</li> <li>・アスペルガー症候群では臨床的に著しい言葉の遅れがなく、2歳までには有意語を話し、3歳までには2語文が可能である。アスペルガー症候群は、通常知的障害を伴わない。</li> <li>・知的障害を伴わない自閉症は幼稚園集団行動の中で不得意なことが目立ってくる。</li> </ul>	知的障害を伴わない自閉症・3歳以後（集団の場面）

発達障害は次のような疾患に分類される。それぞれの特徴的な症状や対応を記載した。しかし、同じ疾患であっても、様々なタイプがあることや、他の障害との重複が多くあることも理解しておくことが必要である。

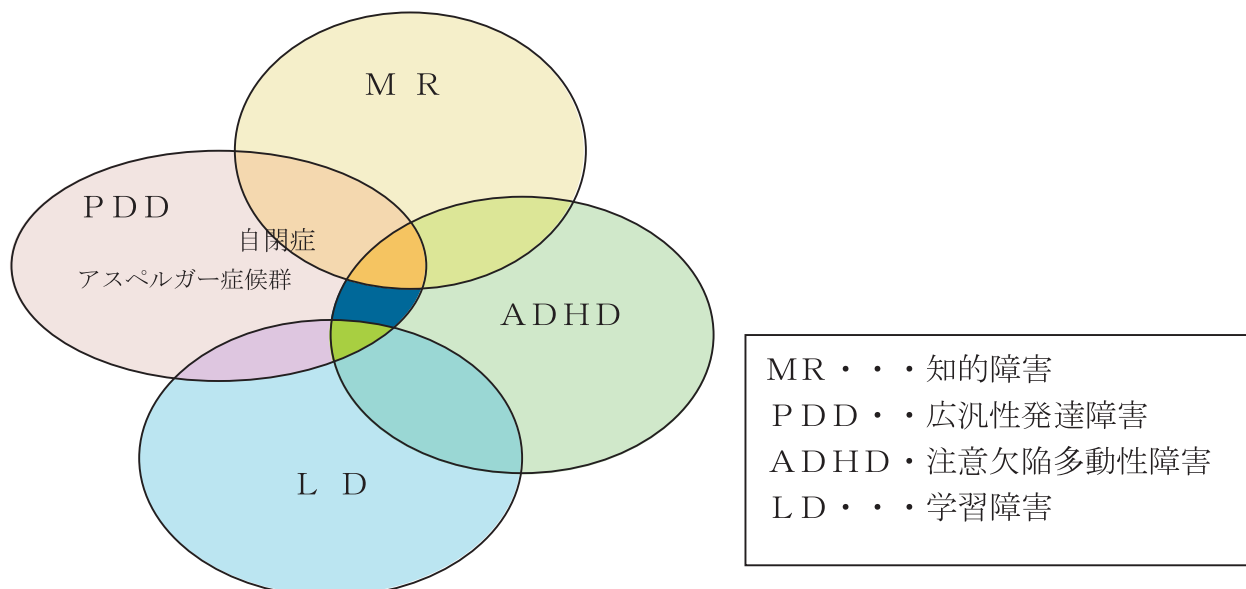


図 発達障害の疾患の重複（概念図）

（出所）兵庫県健康生活部健康局健康増進課『乳幼児集団健康診査マニュアル（別冊）

～発達障害児を早期発見・早期支援するために～』2006 p. 4-3

#### 4 発達障害の就学前の気づき

障害名	気づき	気づきの内容
学習障害（LD）	就学前に <u>気づきにくい</u>	小学校で行うような座学を中心に教えるところは少ないので、学習面での偏りは気づきにくい。
注意欠陥多動性障害（ADHD）	就学前に <u>気づきにくい</u>	乳幼児が多動であるのは生来的なものであり発達面でみると正常な範囲での多動かどうかの判断は難しい。
高機能広汎性発達障害（HFPDD）	就学前に <u>気づきやすい</u>	友達とのトラブルが多い。一人で遊ぶことが多い。こだわりのある行動をする。ことばを字義通り解釈する。かんしゃくをおこしやすい。など

（出所）小野次朗「障害児共生保育 発達障害の理解と支援」『ちゃいるどネット OSAKA』p. 13-14 第72号 2007年

参考に表にする。

## 5 発達障害の言葉が使われるのは何歳からか

障 害 名	使用される年齢	備 考
学習障害（LD）	6歳から。 就学前はLDsuspect (LDの疑い有り)	子どもの教育環境によって個人差がある。LDの言葉が使用されるのは、読み書き計算ができるようになる小学校1年生以後に使われる。
注意欠陥多動性障害（ADHD）	3歳から診断名として使うことが可能。	幼児期の発達をよく理解することが大切。
高機能広汎性発達障害（HFPDD）	3歳までに言語発達・認知発達に明らかな遅れが認められる子どもたち	広汎性発達障害（PDD）は、成長とともにその特徴が目立たなくなることはあっても、治癒するということはない。

## 6 特別支援教育の3段階の支援

順 序	内 容	例
第1次支援	気になる子への配慮をする。	クラスの中で、「この子、うろうろするね」と気になることが出てくる。気になる子への配慮が第一段階。
第2次支援	その年齢（学年）全体にかかわる先生方が一緒になって、気になる子どもにどのような支援をするか話し合う。コーディネーター（特別支援教育部）が話し合いに参加する。	「～ちゃんはこの問題があって、私一人の力では保育できない」と宣言している時期。
第3次支援	親の了解を得て検査をする。個別の指導計画を立てる。専門機関との連携をとる。	その子の強いところをさらに伸ばし、弱いところをサポートするために検査をする。個別の指導計画に基づいた支援をする。

## 7 発達障害の指導と支援の手順

先生の経験・勘 + 客観的データ

P (Plan)	個別の指導計画
D (Do)	実行
C (Check)	1 カ月ごとにチェック
A (Action)	再考してから再実践

### ワークシート (例) 保育中に ~ こんなときどうする？

設定保育が始まって少し経過すると部屋から飛び出してしまう。  
そして、蛇口のところに行き水で遊んだり、砂場で砂遊びをしたりする。

- 1 困難の背景 (考えられる背景を2～3つ)
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 2 対応の方法 (学級での対応・園全体からの支援など)
  - (1) クラスでの対応
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  - (2) 園全体からの支援

## 第 IV 部 発達障害の指導と支援の実際

### 1 高機能広汎性発達障害児の場合

#### (1) 判断基準

社会性・対人関係の障害	言語・コミュニケーションの障害	想像力の障害
① 集団行動ができない。 ② いつも一人で遊んでいる。 ③ 友達とうまく遊べない。 ④ 指示に従えない。 ⑤ 人の気持ちが読めず暗黙の了解もわからない。 ⑥ 見ず知らずの人に話しかける。	① 言語発達が遅い ② 単調な抑揚のない話しをする。 ③ 非常に高いトーンで話す。 ④ 方言を話すことができず標準語である。 ⑤ 会話がうまく成り立たない。 ⑥ 自分が興味のあることを一方的に話す。	① 見通しをたてにくい。 ② 予定が変わると不安である。 ③ ある特定のものをつけていないと不安である。 ④ 同じビデオの同じ場面を何回も繰り返して見る。 ⑤ 特定の領域の知識はとても深い。才能と呼ばれる能力を発揮する。 (例：虫博士、昆虫博士と呼ばれたりする。平仮名を3日間で覚える)

※ ただし、一人の子どもにすべての特徴が認められるわけではないことに注意が必要である。  
 (出所) 小野次朗「障害児共生保育 発達障害の理解と支援」『ちゃいんどネット OSAKA』p.13-14 第72号  
 2007年を参考に表にする。

#### (2) 高機能広汎性発達障害児の子どもの世界

混とんとした世界に住んでいる。

ストレスを抱えている。

- ① 保育士の指示がわからない。
- ② 周りの友達の動きを見ても先が読めない。
- ③ 遊びの中で、急にルールが変わるとついていけない。
- ④ 全体の様子をまとめて書くよりも、一部に注意が奪われ、全体が見えていないような行動をする。
- ⑤ 一部に注意が奪われる。全体の様子をつかむことができない。

### (3) 行動記録の例

月・日・時間	〇月〇日午前〇時
表れた問題行動	園庭に出ないといってパニックになる
問題行動が起こる前の状況・活動	お絵かきをしていたが、運動会の練習の予定が急にはいる。
その時行った対処方法	例① 時間がないので無理やり連れて行った。 例② タイムタイマーで10分という時間を示し、そこで活動を変える約束をする。
対処に対する反応	例① パニックがさらに激しくなった。 例② 10分後に少し嫌々ながら、練習に参加できた。
問題行動を起こした原因	例① 好きなお絵かきを急にやめさせられたこと。 例② 好きなお絵かきを急にやめさせられたこと。

※注 原因がわからない場合は、空欄にする。原因がわかったり、予想できたりすれば、そのような活動や行為を避けるようにする。同じ原因でも対応が異なれば、子どもの反応も変わることにも注意する。

(出所) 小野次朗「障害児共生保育 発達障害の理解と支援」『チャイルドネット osaka』第73号 p.13-14 を参考に作成

### (4) 指導の支援

- ① 視覚的支援をする。 — 絵カードや写真など

例 「お帰りの時間です」 → 「帰りにかぶる帽子を見せる」  
→ 「降園時間の写真を見せる」 → 「バスのマークカードを見せる」

- ② 指示は「短く・はっきり」と伝える。
- ③ ひとりでホッとできる時間と空間を園の中に確保する。
- ・ 子ども同士でかかわることを強要しない。
  - ・ 静かなリフレッシュスペースで好きな活動（おもちゃを並べる。図鑑を見る。）をさせる。同じ原因でも対応が異なれば、子どもの反応も変わることにも注意する。
- ④ スケジュール表を利用する。
- 自閉症の子どもは「見通しが立てば実力をだしやすい」、「予定に納得できれば人一倍の努力を惜しまない」という長所をもっている。スケジュールは、カードや実物を使って見てわかるように、確かめられるようにしておく。
- ⑤ こだわりの活用
- こだわりは自閉症の症状であるが、その強さは子どもの不安や混乱、楽しみの有無などで増減する。こだわりが強まる場合は、行為を禁止するのではなく、子どもの不安を減らすための支援が必要である。

例 「2番目のフックに自分のかばんをかける。」  
↓  
「飛行機マークの付いているフックにかばんをかける。」  
※ 進級しても場所が変わっても、不都合が生じない。  
いつものとおりと子どもが安心感を持てる。

⑥ コミック会話（具体的指導法）

人物を線画で描いて、それに漫画でよく使われる「吹き出し」の中に言葉を入れていく。

⑦ ソーシャルスキルトレーニング（具体的指導法）

ソーシャルスキル獲得を目的とした絵カード（SSTカード）の利用

「身近な出来事の意味」や「場面・状況にふさわしい行動」、「相手の気持ち等を学ぶ」対人関係のトラブルの予防をする。

幼年版 連続絵カード場面の認知（危険回避と約束事）

2003年A5版44枚組エスコアール <http://www.escor.co.jp> (2008年2月検索)

“良く見えないから、前に行って見よう！”

この子の後ろの子たちを見てください。  
この子が立っているため、紙芝居が見えなくて困っています。  
今は、みんなで一つの紙芝居を見ます。  
※ どの子もしっかり見たいのです。紙芝居は自分の場所で座って見ます。

“この本、面白い！”

この子の周りを見てください。  
もう本を読める時間は終わっています。  
園の生活には時間の区切りがあります。今はお帰りの時間です。  
※ 場面の切り替えの難しい子には、あらかじめ終わりの時間、予定などを提示しておくことが不可欠である。